



祝 特定非営利活動法人 通院送迎センター「ステップ福岡」 設立二十周年記念祝賀会開催

九月九日(日)十一時から福岡市姪浜のレストラン「ゆずのき」で特定非営利活動法人通院送迎センター「ステップ福岡」の設立二十周年記念祝賀会が行われました。今回は、これまで「ステップ福岡」にかかわった関係者の方々はじめ、北部九州三県の通院送迎事業団体やボランティアの方など四十七名の参加があり、「さわやか」から山田・高原・貞谷が参加しました。

初めに、「ステップ福岡」の大柘実事務局長より開会の言葉がありました。皆様の「ご支援を賜り

二十周年

続いて、「ステップ福岡」の野上隆生理事長より、「『ステップ福岡』は設立二十周年を迎えることができました。これもひとえに、皆様方の大変なご支援を賜りまして、感謝申し上げます。

本日はささやかですが、祝宴を開催いたしますので、楽しんでいただきたいと思います。」と挨拶がありました。次に、来賓として、「ス

通院送迎センター

「ステップ福岡」とは

平成11年9月に開設をし、平成15年11月に特定非営利活動法人として認証され、透析治療による合併症等のため自力で通院が困難な患者さん、特に高齢で1人暮らしの方、または支援を行う家族のいない2人暮らしの方等、通院手段に困っている方々の送迎の手助けを行っている団体です。

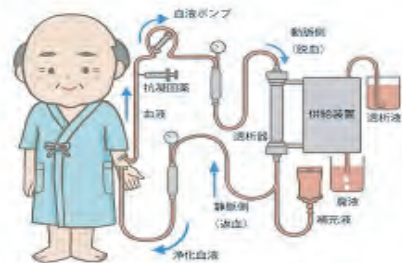
台風21号ならびに北海道胆振東部地震により

被害を受けられた方々に

心よりお見舞い申しあげます。

被災地や被災者の皆様方の一日でも早い

復旧・復興をお祈り申しあげます。



を目的として結成された透析患者を中心とする患者会です。

一九七一年の結成以来、人工透析患者の生活環境と透析患者の予備軍である糖尿病、腎臓病の予防や啓発事業などに取り組み参りました。

この間、透析の治療技術は大変、進歩して参りました。私たちは透析患者は恵まれた環境の中にいる

私たち透析患者は、日本の透析医療は大変恵まれた環境の中で行われるようになってきました。

通院送迎センター「ステップ福岡」 設立20周年記念祝賀会スナップ集！

笑顔で(´・`*)
 参加者全員で
 記念写真



素敵な演奏でした！
 香椎宮雅楽保存会の
 皆さんで「雅楽」

迫力がすごかった
 大柘実事務局長
 巻藁射礼披露



その一方、全腎協は患者の高齢化の取り組みとして一九九十年に要介護者問題対策委員会を設置しました。患者会が中心となり

通院送迎の実施に取り組むとりわけ、患者の通院送迎対策を重要課題とし、「元気な患者が支援を必要とする患者を送り迎える」という合言葉に患者会が中心となり通院送迎の実施に取り組まれました。



それをつけ、「ステップ福岡」の設立当初の理事長である真砂様を中心に通院送迎を目的に「ステップ福岡」を始められました。真砂様の強い意志と人工透析患者への強い思いを野上理事長様と落合副理事長様がしっかりと意志を引き継がれ、役員の皆様とともにボランティアの皆様のお力添えをいただき、行なっています。

二十年目のスタートをきります通院送迎センター「ステップ福岡」が益々のご発展をされますよう、また役員とボランティアの皆様のご健康を心よりお祈り致します」と代読されました。(裏面へつづく)



通院送迎活動が二十年、四十年と

将来を見据えて活躍を

(表面よりつづき)
 福腎協の森満会長は「この度通院送迎センター『ステップ福岡』におかれましては設立二十周年を迎えられ、大変おめでとございます。全国の先陣を切る

画期的な取り組み

さて私ども、腎臓病患者活動におきましては、昭和四十年代から始まりました。平成になり、透析患者が通院支援をするボランティア団体が平成八年に北九州市腎友会が設立した通院介護センター『さわやか』と平成十一年に福岡市腎友会が設立した通院送迎センター『ステップ福岡』の二事業所があります。

設立のコンセプトは「透析患者やその家族が同じ病を抱える仲間の送迎を手助けをしよう」というところから始まりました。

設立当時は、全国各地から我々の先陣を切る画期的な取り組みとして脚光をあびました。皆様ご存知のとおり、透析患者は台風や大雪の中でも週三回、通院を行わな

れば生きていけません。

若い透析患者もいずれば年を重ね、通院送迎の手助けを必要となるときがきます。

このことを両腎友会では、将来の透析患者が安心して通院できるシステム作りには汗を流しました。

この活動は全国に広まり、二〇一八年三月末現在で北海道から九州にかけて三十七団体あります。

『ステップ福岡』は設立当時、福腎協の組織内の事業としてスタートしましたが、

平成十五年十一月に特定非営利活動法人の認可を取得し、北九州市の『さわやか』と同様、自立した事業所として現場に立っています。

支えられて成り立つここに至るまで、初代理事長の真砂様並びに歴代の理事長様、そして現理事長の野上様におかれましては多大なるご尽力と、それに携わる患者とご家族並びに市民の皆様のボランティア精神に支えられて成り立っています。

この活動は次の三十年、

病気と共に生きることは

どういうことなのか

九月十六日(日)に九州大学医学部百年講堂で「第一回九州CKD看護研究会(以下福腎協)の会員として貞谷が参加しました。

九州CKD看護研究会は、慢性腎臓病(CKD)の全領域である保存期や血液透析、腹膜透析、腎移植の療養生活支援における看護の実践

力を高めることを目指して設立されました。十三時



三十分から大ホールで「患者の体験から学ぼう」と題してワークショップが行われました。

このワークショップの目的は、「病気と共に生きることはどういふことなのか」を患者自身に語っていただき、医療者たちに知ってもらふことです。

そこで、人生の途中で慢



四十年さらには五十年と将来を見据えて活躍することをお祈りしてご挨拶に代えさせていただきます」と話されました。

祝電披露のあと、日頃の活動に対し、感謝状の贈呈式がありました。

設立当時から二十一年間にわたりご尽力をいただいた三人のボランティアさんを含め、全てのボランティア

の皆様へ感謝状の贈呈がありました。

また、利用者のご家族からの感謝のメッセージの披露がありました。

休憩をはさみ、懇親会に入りました。

初めに、乾杯の挨拶あり、宴に入りました。

懇談の途中には、事務局長の大枘実さんが弓道の礼法の種類の中から重要な式典において最高位の射手が行う坐射礼と立射礼がある巻藁(まきわら)射礼を披露しました。

また、ボランティアさんがかかわり、活動されている香椎宮雅楽保存会による「雅楽」と落合副理事長による詩吟「宝船」が披露されました。

その後、お楽しみ会では、五人に景品が当たりました。

中身は高額が当たるかもしれない宝くじでした。

その五人の中に「さわやか」の高原事務局長が当たりました。

最後に、博多祝い唄と博多手一本で懇親会が終わりました。

野田朋宏副理事長より閉会の言葉があり、記念祝賀会は十四時三十分を終了しました。